

# 行事の達人!

## ～研究発表会の巻～

「行事の達人!」では、  
先生方の声をもとに、  
学校行事を  
全力で応援します!

そもそも、研究発表会って  
何のためにやるのかにや?

簡単にまとめると  
こういうことじゃ

にゃんた  
学校行事に  
興味津々な若造ねこ



ぎょうじい  
あらゆる学校行事を  
見守ってきた行事の化身



学校が、共通の目標に  
向かって問題解決  
していく一つの  
チームになります。

教員が同じ指導観で  
授業(指導)をしていく  
ようになるので、  
子どもの学ぶ姿勢も  
変わります。

まず、教職員の  
「指導観・評価観」や  
「子ども観」が  
統一されていくので、  
日頃の教育活動の質が  
おのずと高まります。

研究発表会をする、と  
どんなよいことが  
あるのでしょうか。

**研究発表会とは...**  
校内研究の取り組みの成果や  
課題などを広く公開して、成  
果を普及すると同時に評価を  
得て、さらに研究を深めていく  
めに行います。

# 研究発表会

平成二十五・二十六年度  
教育委員会 研究協力校

ひまわり小学校

### 研究のベース

#### 研究の方向性・共通理解

意欲的に学ぶようにするには、  
教材と活動を工夫する必要が  
あるよね。

子どもたちの  
表現力を  
高めたいな。



子どもたちの  
受け身の授業態度  
を変えたいな。

- 子どもの実態から、教員の指導改善の課題を明確にする。
- 課題解決のための授業改善の手立てについて、共通理解を図る。

### 要チェック

#### 発表に向けたポイント・メモ

～研究発表会の実施が決まったら～

- 研究発表会を開催する前の学期までに、すべての準備は終わらせておくくらいの心づもりで進める。
- 研究主任を中心に推進委員会で決めたことを徹底し、研究のねらいや方法がぶれないようにする。
- 全教員が研究の見通しをもてるよう、研究の構想や研究授業の計画などを早めに示す。
- 共通理解を図るには模擬授業が有効。

### ポイント② 組織づくり

- 研究に対するベクトルの統一
- 専科の先生を上手に巻き込む
- 教材開発・準備の協働作業で一体感を
- 教員自身が変容していく魅力的な内容に
- 誰でもできる、形式的な部分だけでも学校全体で統一

### ポイント① 講師の選定

## 研究の スタートは、 2年前から!

- ① 研究主題の確定
- ② 副主題の検討
- ③ 講師決定
- ④ 目指す児童像の共通理解
- ⑤ 研究仮説の設定

先生方の体験談をもとに、  
**魅力ある研究発表会**までの  
道のりをまとめました。  
日程や**ポイント**も  
ぜひ参考にしてください。

10カ月前  
1月

14～  
23カ月前

研究主題に迫るための授業  
6～7本

# 研究発表会 全体会 10/15日



これは、自分の学校でもすぐに生かそうぞろ。来てよかったな。

教員みんなが、研究のテーマや方向性をよく理解しているんだな。

このあと、ワークショップ形式で研究内容が体験できるんだって！

研究主任と講師の先生のシンポジウムが楽しみなな。

セミナーが短くて、発表の趣旨がコンパクトに分かっているな。

**ポイント⑥**  
双方向  
(学校VS参加者)

前日  
10/14日

- 会場設営
- 最終リハーサル
- 掲示物の最終点検

2~7日前

- 発表リハーサル
- 配付物袋詰め
- 掲示物の確認

2週間ほど前

- 最終指導案の完成 → 印刷
- 印刷物発送
- 模擬授業
- 指導案二次メ切

1カ月前  
9/15日

- 指導案一次完成
- 研究紀要・研究報告 → 原稿完成
- 研究発表会二次(最終)案内

2カ月前  
8月

- 研究発表会実施案及び一次案内  
▶ 研究発表会までの大まかなスケジュール

4カ月前  
6月上旬

**ポイント④**  
教委との  
打ち合わせ

- 発表のスタイル確定  
(パネルディスカッション、シンポジウム、ワークショップなど)  
★研究紀要の構想立案

5カ月前  
5月上旬

**ポイント③**  
発表会に  
向けて  
志気高揚

半年前  
4月

## 研究発表会が成功したら…

### 校長先生

やはり研究を柱とした学校運営はいいもんだな。先生方の子どもを見る目が変わったぞ！



### 研究主任

研究は大変だったけれど、とてもやりがいがありました。研究が深まった実感があります。



### 若手教員A

今回の発表を通して研究の大切さが身にしみました。ベテラン先生からいろいろな知恵を学んでいきたいと思っています。



### 若手教員B

多くの先生が1つの目的に向かって団結していく過程が勉強になりました。一体感を強く感じました。



## 中間のまとめ

### 1年間の成果と課題

- 研究発表会まで2年間あっても、1年ごとにまとめをしておく。
- 取り組みで明らかになったことと、さらに検証が必要なことを整理する。
- できれば中間報告会などを開いておくことで研究がさらに深まり、本番のレベルも高くなる。

## 留意点を聞きました！



1学期中に、ある程度の研究の成果を明確にしておきましょう。



研究授業後の懇親会のコミュニケーションは楽しくしよう！



自分の役割だけでなく、互いにカバーしあえる雰囲気大切にね。

ここから  
本格  
スタート！

※ここに挙げた事例は、弊社で独自に行った先生方へのアンケートや取材の結果を反映させたものです。学校ごとにそれぞれ状況が異なると思われるので、ご参考程度とご理解ください。

➡ 続きはWebへ！

🔍 行事の達人

🔍 検索

